

5. GOの改善例

みがき方を工夫し実践できるよう適切な指導を行うことにより、児童生徒は歯肉の改善状態を自分で確認することができるので、歯や口の健康に関心を持ち、好ましい生活習慣を身につけさせやすい。

※改善例 1

叢生によるGO



11・12 周囲に歯肉炎が見られる



学校において保健指導を行った



歯肉炎は改善し、一部にスティップリングが見られるようになる

※改善例 2

不潔によるGO



21・12 部の歯肉が赤く腫れている



3ヶ月後

刷牙効果により歯肉が改善されてきた



8ヶ月後

良好な状態を維持している

参考 ZSについて

歯石の沈着は認められるが歯肉に炎症が認められない場合、「歯肉の状態」では「0」をマークし、学校歯科医所見欄に「ZS」と記入し受診を指示する。

ZS症例



CO・GOのねらい

いま、学校歯科保健は、疾病の早期発見やその治療管理への対応から児童生徒が自分の健康を自ら維持管理できる「生きる力」をはぐくむヘルスプロモーションの理念に基づいた対応へと移行しています。

このような「疾病対応から健康対応へ」という考え方において大きな役割を果たしているのがCO・GOの検出です。児童生徒は、自分の身体の一部が疾病に侵されそうな状態にあることに気づき、疾病に傾きかけた歯や歯肉の健康を取り戻すために生活習慣を自ら振り返ることで、食習慣や歯みがき習慣などの生活習慣を見直すことができるようになることが大切です。そのことは、まさにヘルスプロモーションの考え方そのものであり、CO・GOのねらいなのです。我々学校歯科医は、CO・GOをそれぞれの児童生徒から見つけ出し、その対応方法を指導する重要な役割を担っています。

学校関係者、学校歯科医、地域の歯科医療機関（かかりつけ歯科医等）は、CO・GOのこのような役割を十分に理解し、お互いの連携を取りながら児童生徒の一人ひとりが行うヘルスプロモーションを支援することが重要です。